

虹の架橋

今月の題字

小堀陽子さん

(大間々町浅原)

大間々ライオンズクラブの元会長さんで、ネパールで活動するOKバジさんへの支援をはじめ、いろいろな地域貢献活動にいっしょに参加している尊敬する人生の先輩です。

虹の架橋三百号感謝の集い
「ご来場をお待ちしています」

「虹の架橋三百号感謝の集い」はネパールのOKバジさんが日本へ一時帰国される日程に合わせて講演を依頼し、第二部は「星野富弘さんの世界」と題して真下陽子先生、深澤節子先生、深津素子先生が指導しているハンドベルやコーラスのグループに出演をお引受け頂きました。そして、星野富弘さんから「虹」という素敵な一文字を書いていただき大感激しました。



虹

OKバジさんからのメッセージ

「虹の架橋感謝の集い」へのお招き本当にありがとうございます。これまで長い間、多くの皆様が虹の架橋に魅了され、きつと毎月一日を楽しみになさって来たと思います。私もその一人です。私は小耳にはさんだいい話とやっちゃん日記を楽しみにしています。小耳にはさんだいい話では勇気を与えられ、希望を与えられ、自分の生き方を反省させられ、心が洗われ、私の友人たちへも伝えたくります。

虹の架橋300号記念感謝の集い
日時 6月4日(日)午後2時開演
場所 ながめ余興場
入場無料 只今整理券配布中!
お問合せは足利屋 0277-73-1212



小耳にはさんだ

いい話
(文責・繪)
《334》

「やさしさ」と「笑顔」

六月四日に開催される「虹の架橋三百号感謝の集い」は、虹の架橋を創刊当初から応援してくれている八人の友人たちが実行委員会をつくり、計画から実行まで全て手配していただきました。実行委員代表の天川洋さんは、当日配布するプログラム

の挨拶文にこう記しています。『松崎靖さんのたゆまぬ努力と不屈の精神により発行を続けて三百号を迎えた虹の架橋の偉業を祝すため日頃より行動を共にしている友人有志が集まり、イ

「やさしさ」と「笑顔」
ベントを開催しようという話になりました。そこで松崎さんが虹の架橋で常に追い続けている「やさしさ」と「笑顔」を代表するものとして、紙面の中で数多く取り上げられているネパールで人道支援活動を行っているOKバジこと垣見一雅さんと、地元の詩人作家・星野富弘さんをテーマにした今回の企画となりました。このイベントを通して、虹の架橋の「やさしさ」と「笑顔」の世界を共に楽しんでいただければ幸いです。

実行委員代表 天川洋

人間学を学ぶ『致知』という雑誌の最新号で、「人が生きていく

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の写真《334》

昭和初期の足利屋



大間々の足利屋は大正二年五月、本家である花輪の足利屋から独立し、開業したばかりの足尾鉄道大間々駅前の停車場通りで足利屋をはじめました。今年創業百年を迎えました。足利屋に残る一番古い写真には、私の祖父や学生服を着た父、幼い叔父たちの顔も写っています。「福引大賣出し」の横断幕の下に「奉祝」という提灯があるので、この写真は昭和天皇が即位された昭和三年十一月十日頃に撮影されたものと思われま

夜はホテルに宿泊した同窓会会員と群馬支部の四子名で又義親会を開いた。ロサンゼルス支部長のさきやハワイのMさん、初参考で小学生からの富弘さんのアマンだったという徳島県支部の若いHさんと話か弾んだ。宮崎県支部のIさんは丸一白かけて宮崎から一人で車を運転してきたと言っていた。全員の席を回って話をした。演歌のセリフ通り「飲めと言われれば素直に飲んだ」。料理も全部食べた。食べ過ぎ飲み過ぎで体重は重くなったが尻は軽くなりました。

靖ちゃん日記

令和五年五月二十日(土)
桐生グランドホテルで「富弘美術館」の支部長スタッフ会議が開かれた。全国から支部会員や関係者など総勢八十八名が集まった。富弘さんご夫妻も元気で出席。富弘さんはいつもなごらのジョークを交えた挨拶で会場を和ませてくれた。ご夫妻を囲んで支部ごとに記念写真撮影。皆の緊張を和らげるため笑わせ係になった。自分の一番笑って嬉しかった。

上で欠かしてはならない大切なものが三つある」として、お釈迦様の言葉が紹介されています。
一は人生の師
二は人生の教え
三は人生を共に語り合える友人

虹の架橋を発行し続けたお陰で、人生の師と仰ぐ方々と出会い、鍵山秀三郎さんからは「益はなくとも意味はある」という教え。星野富弘さんからは「私は傷を持っていてもその傷のところからあなたのやさしさがしみてくる」というやさしさ。OKバジさんからは「あるもので、今から、ここから、自分か

ら」と、まずは一歩踏み出す大切さを教わりました。そして、人生を共に語り合える友がこんなにも大勢いることに感謝しています。
鍵山秀三郎さんから「十年偉大なり、二十年畏るべし、三十年歴史なる」という言葉も教えてもらいました。
虹の架橋は三十年まであと二年になります。



連休明けの日曜日に開催された「伊藤征夫個展」と題するコンサートは伊藤さんの温かいお人柄、ご兄弟の「伊藤ブラザーズ」の澄んだ歌声、そして、ピアノとホルンの演奏が素晴らしいハーモニーを醸し出していました。会場となった東町の「童謡ふるさと館」の周りには青紫の桐の花が咲いていました。「...いちばんたかいところ」に青色をして咲く桐の木よ おまえもあの空がすきか」と、星野富弘さんも描いた桐の花言葉は「高尚」だそうです。高尚な桐の花を見ながらコンサート之余韻を楽しんできました。

虹の架橋を検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百二十五号は令和五年七月一日(土)発行予定です。

やっちゃんの似顔絵提供: ひさかさん